

◇日米共同訓練の中止を求める申し入れ（1月29日）

防衛大臣 北澤 俊美 殿

日本共産党茨城県委員会
委員長 田谷 武夫
日本共産党茨城県議会議員団
県議会議員 大内 久美子
県議会議員 山中 たい子

米軍再編にともなう日米共同訓練移転で防衛省北関東防衛局は、航空自衛隊百里基地で1月29日から2月5日の日程で日米共同訓練の実施をすと発表しました。

米軍嘉手納基地所属の18航空団のF15戦闘機と百里基地のF15戦闘機が、百里沖の空域で戦闘訓練を予定しています。

百里基地での共同訓練は2007年10月、08年1月、09年10月に次いで4回目です。今年度は全国4カ所の基地で共同訓練が実施されましたが、年度内の2回目の訓練は現時点では百里基地だけです。

百里基地周辺の住民は、日常的に戦闘機の騒音に苦しめられており、軽減策はとられてきませんでした。09年度は共用化の新滑走路でおこなわれ、騒音被害は住宅地接近の西側に拡大・強化されてしまいました。

政府はこれまで、訓練移転は「沖縄の負担軽減」などと説明してきました。しかし、嘉手納基地の騒音は最新鋭のステルス戦闘機F22の配備など、「軽減」どころか増加しているのです。

新政府になり沖縄の普天間基地移転が最大の課題になっています。

1月24日投票の名護市長選挙では、新基地建設反対をかかげた稲嶺進氏が勝利しました。「沖縄に米軍基地はいらない」「普天間基地無条件即時撤去」は県民の強い願いであり、新政権はこの願いにこたえるべきです。

在日米軍基地についても、日米地位協定の見直し、訓練の縮小は緊急の課題です。

このような情勢の下で、今回の百里基地における日米共同訓練はただちに中止するよう強く申し入れるものです。

以上